

再評価結果（平成16年度継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課
担当課長名：岡部 和憲

事業名 <small>きた じょう みやのさわどおり</small> 北1条・宮の沢通	事業区分 街路	事業主体 札幌市
起終点 自：北海道札幌市中央区北1条西11丁目 至：北海道札幌市中央区北1条西24丁目	延長 1.7 km	
事業概要 北1条・宮の沢通は、昭和11年に都市計画決定され、本市の骨格幹線道路である「2連携1環状1A 1A S11放射道路」の一つであり、札幌と小樽を結ぶ幹線道路として古くから発展してきている。本路線の整備やバスレーンの設置により、中心市街地における交通の円滑化を目的とし、国道230号の北1条地下駐車場の整備にあわせて着手した。		
H7年度事業化	S11年度都市計画決定 (H2年度変更)	H7年度用地着手
H8年度工事着手		H8年度工事着手
全体事業費 ：約87億円 事業進捗率 ：87% 供用済延長 ：1.4 km		
計画交通量 ：25,600台/日		
費用便益分析結果 B / C (事業全体) 2.3 (残事業) 9.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 12/110億円 (事業費：12/110億円 維持管理費：0/0億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 103/253億円 (走行時間短縮便益：100/246億円 走行費用減少便益：3/7億円 交通事故減少便益：0/0億円)
基準年 平成16年		
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（拡幅により、バスの定時制が図られる） ・無電柱化による美しい町並みの形成（電線類の地中化により、良好な都市景観の形成が図られる） 他5項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 当該路線はバス路線で西方面と中心部の重要なアクセス道路であるとともに、沿線には知事公館や道立近代美術館などもあり、景観上の配慮も必要な路線である。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成13年度に北1条地下駐車場（直轄施工）が完成した。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地買収、工事ともに順調に推移しており、既に1.0kmを供用開始している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成17年度までに全区間の供用を開始する。		
施設の構造や工法の変更等 特になし		
対応方針		事業継続
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図 		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。